

派遣先所属 福島県避難者支援課  
氏 名 青柳 拓未 (あおやなぎ たくみ)  
派遣期間 令和6年4月1日～令和7年3月31日 (昨年度から継続派遣)

## 1 派遣業務の内容、現況

私は昨年度から福島県に派遣されており、今年度も避難者支援課に配属となりました。避難者支援課では福島県から県外へ避難した方に対し、生活再建支援拠点での相談対応や、復興支援員によるアウトリーチや交流会の開催、心のケアの取組、住宅確保の支援、地元新聞や自治体広報誌などの送付や、民間団体への補助を通じた支援などを行っています。震災から13年以上が経過しましたが、今もなお多くの方が福島県から県外へ避難しており、時間の経過とともに避難者を取り巻く課題が個別化・複雑化しています。そのため、引き続き、避難者への相談対応、情報提供、交流機会の提供等を行うとともに、福祉等の具体的なサービスに繋げる取組が必要となっています。

私が主に担当している業務は昨年度から引き続き「被災者支援総合交付金」に係る一連の業務の取りまとめです。この交付金は東日本大震災に伴う避難生活の長期化や、災害公営住宅等への移転など、取り巻く生活環境が変化する中で、被災者が安定的な日常生活を営むことができるように、「心の復興」やコミュニティ形成の促進等の各地域の復興の進展に伴う課題に対応した支援活動の実施に必要な施策を総合的に支援することを目的としています。

交付金の利用には様々な手続きを行う必要があり、主に事業計画書の作成、交付申請書の作成、交付決定内容の修正、実績報告書の作成等があります。これらは県で書類を作成した後に国へ提出する必要があり、県庁内の各部局の担当者や復興庁、厚生労働省、こども家庭庁、文部科学省の4省庁と調整を行いつつ、事業が円滑に進むように日々努めております。

本業務に携わるのが2年目ということもあるため、昨年度の経験を活かし、上記に記載した業務を滞りなく実施するよう努めております。また、第2期復興・創生期間が令和7年度で終了するため、今後の被災者支援総合交付金を用いた事業の在り方に関する議論を国及び県内関係部局と進め、実施されている事業の必要性や内容の精査を行い、より良い形で事業が実施できるようにに向けた準備を進めています。

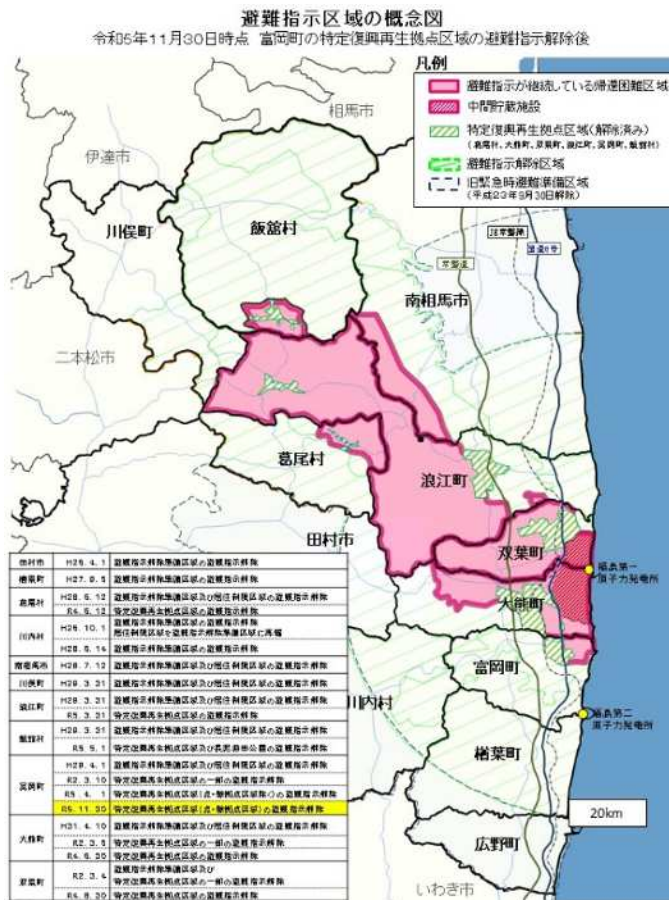


避難者支援課で発行している「ふくしまの今が分かる新聞」  
(令和6年11月21日(木) 第106号 隔月発行)

## 2 被災地の復旧・復興の状況

昨年度に引き続き6月にも被災地域へ現地視察しました。視察先は福島第一原子力発電所で、これが2回目の訪問となります。間近で見ると修繕されている箇所と破壊跡がはっきりと分かれており、線量計の値も県内で見ることがないような数字が表示されていました（視察後の被曝量は胸部レントゲン検診1回分以下の量でした）。この光景を目にすると福島県の復旧・復興は終わっていないことを実感します。また、視察の際はバスで市内を移動したのですが、その道中に人の手入れがされなくなり老朽化した建物が何度も目に入り、寂寥感に苛まれました。復旧・復興が進んでいる地域とそうでない地域の差があるのが現状です。福島県では人が住めなくなった地域があること、避難を強いられた人達を取り巻く問題は今現在も現実で起きていますが、年月が経った結果、風化という問題にも直面しています。今一度福島の今を様々な人に知ってもらうことが重要です。

本報告書を記載している時点では最大の難関とされていた初の燃料デブリの試験的な取り出しが完了しており廃炉に向けて進んでいます。30～40年後の廃止措置終了まで計画通り進めることができるのか、今後の動向には派遣終了後も引き続き注視したいです。



### ●避難区域の状況（令和5年11月30日時点）

（出典：ふくしま復興情報ポータルサイト 避難区域の変遷について-解説- より）

### 3 被災地へ派遣となって感じたこと

私は昨年度から福島市に居住しており、中通り特有の気候にも慣れ、日々の過ごし方が定まってきました。最近のマイブームはスーパー銭湯やサウナに行くことで、福島駅前にあるサウナ専門店に足を運ぶことが多いです。福島市内はお店が少ないため、郡山市の方まで足を運ぶことが多いです。日常生活では、近所にあるヨークベニマルという福島を中心に展開しているスーパーで買い物をし、休みの日には何度も走った阿武隈川の道沿いを走るなど、着任当初に感じた新鮮さがかなり薄れたのを感じます。業務の都合で東京や埼玉へ出張し、福島駅に戻ってきた時には「帰ってきた」と感じるようになり、埼玉に戻るのが惜しいです。

今回、派遣させていただいた際に関わった様々な業務では、埼玉県では中々得られない経験を多く積むことが出来たと感じています。今後、埼玉に戻った際にはこの経験を活かし、業務に取り組むよう努めます。



阿武隈川の道沿い ジョギングコース